

### 校歌

作詞 寺田 彰司  
曲 旧制一高寮歌  
「アムール川」

一 千秋の雪積もりたる  
富士の高嶺の雄姿ぞ  
幾万代の後までも  
変わらぬ誠の鑑なる  
奔流百里石をかみ  
巖に激しいや増しに  
勢加わる利根の水  
これ剛健のためしなり  
あ、此の山と此の川と  
日夕眺むる健男児  
自然の示す巨人をば  
如何に学ばん習わなん  
白幡台の雪月花

四 四季の折々常総の  
平野にしるく輝くは  
高潔無垢の別天地  
石段登る六十余  
一足ごとに踏みかため  
心を鍛え身を練りて  
忠良有為の基たてん



編集後記	24	定時制保健講話	24	部活動の主な成績	22	部活動状況	22	SSH	21	附属中学校開校	19	進路状況	18	訃報	17	同窓会活動	15	トピック④	15	トピック②③	13	トピック①	12	母校と私の人生	10	母校の思い出	6	同窓会便り	5	令和2年度総会案内	4	平成31年度総会報告	3	校長挨拶	2	会長挨拶	2	目次	
------	----	---------	----	----------	----	-------	----	-----	----	---------	----	------	----	----	----	-------	----	-------	----	--------	----	-------	----	---------	----	--------	---	-------	---	-----------	---	------------	---	------	---	------	---	----	--



# ご挨拶



白幡同窓会会長  
染谷 信洋

白幡同窓会会員の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

日頃本会並びに母校の充実発展のために深いご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。

本年は四月四日(土)に同窓会総会を開催しました。今年も在校生の吹奏楽部による演奏と応援団及びチアリーダーのエンルで総会を盛り上げていただきました。皆さんには厚く御礼を申し上げます。また母校校長羽成邦男先生にご挨拶をいただきました。

総会においては、平成三十年度の事業報告並びに会計報告等があり承認されました。

さらに令和元年度の事業計画や予算案が提案承認され、無事総会が終了しました。詳細につきましては会報の「総会報告」をご覧ください。

五月二十五日には、二〇二〇年の創立百二十周年に向けて記念事業実行委員会が開かれ

ました。会議において最終的に事業計画が決まり、来年に向けて各委員会が動き始めました。

六月の白龍祭には、今年も若い同窓会有志のポロシャツ姿が躍動していました。五十人近い若い人たちの参加はいへん頼もしい限りでした。

七月には今年も同窓会から「奨励金」を贈呈しましたが、毎年関東大会、全国大会、国体に出場する選手諸君がいることはとても嬉しいことです。そして全国制覇をした射撃部の皆さんには心から祝意と敬意を表します。

吹奏楽部の皆さんも昨年引き続き関東大会に出場するという快挙を成し遂げました。

野球部の諸君は今夏もベストエイトに進出し、秋の県大会でもベストエイトの活躍を見せてくれました。来年の活躍を楽しみにしています。

文科省指定のSSHも第二次指定を受け新たな活躍を見せてくれています。

さらに、来年は附属中学校が創設されるということで、創立百二十周年を迎える年に母校も大きく変貌を遂げることになりそうです。校長先生をはじめ職員の皆さんにはご苦勞もおありかと思いますが、

ぜひ新しいかたちの躍進をさせていただくよう期待しています。

母校竜ヶ崎一高が文武両面にわたるさまざまな活躍をしてきていることは卒業生にとってもこの上ない喜びです。

八月初旬、今年も群馬県立高崎高校の同窓会を訪問しました。総理大臣を複数輩出し、文武両道で活躍している高同窓会は実に充実した活動をしていました。

多忙な中、ていねいに対応してください。同窓会の阿久澤茂会長さん、前会長の串田紀之さん、役員の中村康晴さん、同窓会本部幹事長立見友孝さん、事務局の荻原純恵さん、そして出張から帰ってきて対応してくれた加藤聡校長先生、本当に有難うございました。

心から感謝申し上げます。今年も酷暑の夏に加え、豪雨、台風等自然災害の多い年でした。新しい年は被災者の方々にも白幡同窓会会員の皆様にとっても幸多き年になるようお祈りいたします。

いよいよ来年には創立百二十周年を迎えます。十分な準備をして記念式典を迎えられるよう役員一同心してまいります。どうぞよろしくお願いをいたします。

# ご挨拶

変革の時を迎えて



校長  
羽成 邦男

白幡同窓会染谷信洋会長はじめ会員の皆様には、本校教育活動に對しまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、30年続いた平成の時代が終わり、新しい元号「令和」の時代がスタートしました。そのよう

な中、昨年度、茨城県教育委員会は、県立高等学校改革プランを策定し、併設型中高一貫教育校及び中等教育学校を10校増設することを決定しました。それに伴い、本校も対象校となり、2020年(令和2年)4月に附属中学校1

クラスを開校することになりました。現在、開校に向けて準備を進めているところです。8月20日に本校主催の附属中学校説明会を開催し700人を越える児童・保護者、教育関係者が参加されました。

本校への関心の高さを示しております。校名については、6月に開催された第2回定例県議会において、茨城県立竜ヶ崎第一高等学校附属中学校に決定されました。本校は、来年創立120周年を迎え

ますが、中高一貫校として、新たな歴史を刻むこととなります。

また、平成26年に文部科学省から指定されました「スーパーサイエンスハイスクールSSH」も昨年で1期目5年が終了しました。これまでの成果と課題を検証しながら、さらに深化、発展させるために学校全体で2期目申請に向けて取り組んだ結果、3月末に文部科学省から再び採択を受けることができました。「科学の目」を養う1期目から「問う力」を共通指針とした「たくましい科学系人材」の育成を目指す新たなSSHへの取り組みが始まっています。

現代は、社会の変化が激しく将来を予測することが難しい時代ですが、生徒達は、学校創立の精神として掲げてきた「文武両道」継承をし、生き生きと学校生活を送っています。部活動には、8割を越える生徒が加入し、放課後自分の可能性に挑戦しています。今年の関東大会には、陸上部、男子ソフトテニス部、水泳部、射撃部、弓道部が出場し、全国大会には男子ソフトテニス部、射撃部が出場しました。特に射撃部2年生の本橋君は、初出場初優勝という素晴らしい結果を収めてくれました。また、吹奏楽部が2年連続県大会で金賞を獲得し東関東大会出場を果たし、書道部も3年連続全国高等学校総合文化祭に県代表



作品として出展しました。45年ぶりに開催された茨城国体には、男子ソフトテニス部、射撃部の生徒4名が出場し、天皇杯、皇后杯の獲得に貢献しました。部活動の活躍は、学校の活性化に繋がるとともに、生徒達に大きな刺激を与えています。

進路においては、昨年度地元国立公立大学を含む旧帝大等の大学に139名が合格し、早慶をはじめとする私立大学に451名が合格しました。そこには、将来の進路実現を見据え、歩み続ける生徒の姿があります。一方、学園祭や体育祭等の学校行事にも全生徒が全力で取り組んでいます。

定時制においては、「キャリア・サポートプラン」でのキャリアセミナーを実施するなど、一層のキャリア教育の充実を図っています。

「令和」のスタートとともに、本校も変革の時を迎えております。これまでの歴史と伝統の中で培ってきたことを大切にしながら、新しい時代が求めるリーダーとなるべく人材の育成に努めて参ります。そして、夢を抱いた若き生徒が集う学校であり続けます。

結びに、白幡同窓会の皆様には、今後とも本校の教育活動にご支援いただくとともに皆様のご多幸とご活躍をご祈念申し上げてご挨拶いたします。

# 総会報告

平成31年度の白幡同窓会総会が4月6日に竜ヶ崎一高体育館で開催されました。総会次第は次のとおりです。

- 一 開会の言葉
  - 二 校歌・応援歌斉唱
  - 三 吹奏楽部の演奏披露
  - 四 会長挨拶
  - 五 校長挨拶
  - 六 祝 辞
  - 七 記念品贈呈
  - 八 招待学年代表挨拶
  - 九 新任者紹介
  - 十 議 事
  - 十一 閉会の言葉
- 出席者数は、招待学年の高校12回が17名、高校22回が19名、高校37回が27名、高校52回が9名、高校62回が5名、各卒業学年の幹事等が30名で、役員や幹事を合わせて約百五十名の参加者の中、総会が実施されました。
- 総会次第の「記念品贈呈」では各招待学年の出席者の代表の方に記念品の贈呈式をおこない、「招待学年代表挨拶」にて代表の方々にご挨拶をお願いしています。
- また「議事」では2年に一度の役員改選が行われ、下記の方々为新役員として承認されました。

## 平成 30 年度白幡同窓会収支決算書

収入総額 10,861,587 円 支出総額 5,241,453 円 差引残額 5,620,134 円 (次年度へ繰越)

(単位: 円)

科目	本年度予算額	本年度決算額	比較		摘要
			増	減	
1 繰越金	6,006,945	6,006,945			平成29年度より繰越 内訳 定期③ 1,254,756円 水戸信用金庫 (H31.1.17解約し常銀へ) 会計用 4,752,180円 常陽銀行 (普)
2 入会金	1,728,000	1,704,000		24,000	全日制 6,000円×269名=1,614,000円 定時制 6,000円×(13-2)名=90,000円
3 協力金	3,000,000	3,133,000	133,000		ゆうちょ銀行扱い分 (30.3.7~31.3.6) 615件 1,357,000円 コブエヌストア入金分 (30.3.7~31.3.6) 881件 1,762,000円 学校へ持参 7件14,000円
4 雑収入	1,055	17,642	16,587		高28回卒一同 4,000円 名簿販売代 13,500円 解約による利息 110円、普通預金利息 32円
合計	10,736,000	10,861,587	125,587		

(収入の部)

(支出の部)

科目	本年度予算額	本年度決算額	比較		摘要
			増	減	
1 事務費	1,100,000	767,340		332,660	
1 消耗品費	50,000	12,781		37,219	定期残高証明書、事務消耗品代等
2 支払手数料	200,000	191,667		8,333	ゆうちょ銀行扱い分 (30.3.7~31.3.6) 手数料 71,010円 サラト扱い (31.3.6締め扱い分) 手数料 120,657円
3 印刷通信費	350,000	413,697	63,697		同窓会専用封筒印刷、 総会案内用往復葉書・宛名ラベル代等
4 広報費	250,000	11,382		238,618	ホームページ運用諸費
5 旅費交通費	250,000	137,813		112,187	役員会交通費等
2 事業費	4,620,000	4,025,525		594,475	
1 総会費	150,000	50,000		100,000	総会経費補助
2 会報発行費	2,600,000	2,848,716	248,716		会報30号印刷代 (868,457円)、 会報郵送料 (1,980,259円)
3 会議費	170,000	90,784		79,216	役員会等経費
4 招待学年記念品費	0	0			
5 卒業記念品費	200,000	157,505		42,495	卒業証書ファイル購入代
6 部活動奨励金等	1,000,000	505,000		495,000	※20,000円+5,000円×出場人数 (10万円限度) 関東 (陸上部、射撃部、ソフトテニス、吹奏楽) 全国 (射撃、ソフトテニス、書道、写真)
7 学校行事補助	300,000	173,520		126,480	SSH関連事業経費、高大連携経費等
8 国際交流基金	200,000	200,000			国際交流会計へ補助 (29年度~31年度)
3 慶弔費	100,000	0		100,000	
4 基金積立金	0	0			
5 予備費	4,916,000	448,588		4,467,412	白龍祭参加経費、楽器寄贈
合計	10,736,000	5,241,453		5,494,547	

【本部役員】

会長 染谷 信洋 (高15)

副会長 小倉 培夫 (高20)

副会長 関口 広行 (高26)

副会長 倉持 正男 (高27)

監事 大和 佐知雄 (高28)

監事 宮本 正俊 (高10)

監事 山田 實 (高26)

顧問 野口 武太郎 (高40)

顧問 齋藤 佳郎 (高8)

顧問 横須賀 英明 (高10)

【校外幹事】

幹事長 山崎 睦 (高31)

副幹事長 小嶋 豊 (高10)

副幹事長 木野 昭治 (高13)

副幹事長 櫻井 篤美 (高29)

幹事 服部 俊夫 (高25)

篠塚 文男 (高28)

横田 久 (高28)

川口 浩己 (高29)

赤塚 雅之 (高30)

大野 雅之 (高30)

大野 雅彦 (高31)

小嶋 吉浩 (高31)

福田 道義 (高31)

本田 仁子 (高31)

宮本 順紀 (高32)

有川 保 (高33)

霜村 裕通 (高33)

磯山 佳美 (高34)

海田 磨起代 (高36)

具志堅 秀和 (高56)



## 創立120周年記念事業(途中経過報告)

令和元年5月25日(土)に創立120周年記念事業第3回実行委員会が開かれました。昨年、白幡同窓会の染谷信洋会長を実行委員長として記念事業がスタートしましたが、今年度同窓会・PTAの役員改選及び職員の人事異動により実行委員の変更がありました。第3回実行委員会で審議された事項について途中経過報告としてお知らせいたします。

### 記念事業の概要と進捗状況

#### (1) 記念行事

- ①式典 令和2年10月31日(土)
- ②講演会 講師 宮嶋宏幸氏(高30回卒)  
(株)ビックカメラ代表取締役社長
- ③アトラクション 在校生による発表等(現在内容検討中、年度内に決定)

#### (2) 記念事業 体育館大型電動スクリーン設置・プロジェクター購入

#### (3) 記念品 トートバッグ、キーホルダー、クリアファイル、茨城新聞記念号 (バッグとファイルのデザインを生徒から募集中) 令和2年6月発注予定

#### (4) 記念誌 110周年記念誌に準じて発行

#### (5) 今後の予定 第4回実行委員会は令和2年6月27日(土)の予定

### 令和2年度 同窓会総会のご案内

令和2年度の白幡同窓会総会は4月4日(土)12時30分から竜一高体育館にて開催する予定です。今回ご案内の往復葉書を差し上げるのは、各卒業回の幹事の方々と、招待学年の高校13回・23回・38回・53回・63回及び定時制9回・19回・34回・49回・59回の卒業生全員です。

お誘い合わせの上、多数の同窓生の参加をお待ちしています。

なお、招待学年の出席者の方と70歳以上の出席者の方(1回限り)には、陶芸家・植竹敏氏(高27回卒)作製のオリジナル校章入りの「白萩釉鎚湯呑」を記念品として贈呈いたします。

経費の関係で同窓生全員に往復葉書でのご案内はできませんので、この会報「白幡」のお届けが招待状に代わるものです。毎年約16,000部の会報を同窓生に送付しています。招待学年以外同窓生の参加を心からお待ちしています。参加いただける方は事務局(表紙に記載:メール又は電話)までご連絡ください。



総会終了後には、例年通り懇親会を開催します。場所は『咲や姫』(河内町)を予定しています。学校から距離があるため、送迎バスを用意する予定です。なお、懇親会は午後3時から5時までの予定です。詳細については、同窓会HPをご覧ください。同窓生の皆様と若き青春時代の思い出をお楽しみください。



# 同窓会便り

## 高校第二十五回

戸井 三佳

「よう／＼久しぶり」「元気？」という会話から、竜ヶ崎第一高等学校第25回卒業生同窓会を、令和元年7月13日(土)に牛久市甲子亭を会場に開催しました。

これまでの会場は、龍ヶ崎市内ということもあり交通の便なども心配しましたが、71名の参加をいただくことができました。会に先立ち、石引督規君のビデオ編集が開会直前にスクリーンに放映され、ざわつきのなかにも静寂な中でスタートしました。現竜ヶ崎第一高等学校の

羽成邦男校長先生のコメントがあり「開かれた学校」を提唱し邁進している様子が分かりました。観ていた



同窓生たちも昔との比較ができ、あちこちから感嘆の声が上がりました。

当日は、大塚彰吾先生、矢口久良先生のお二人の恩師にもご出席いただくことができました。お二人の先生を囲んで数々の思い出や当時のお話に花が咲きとても懐かしく感動しました。

歓談後半には、同窓の堀田佳子さんが二胡の演奏者というところで会の中で場を盛り上げる為に一役担って頂きました。友達6人と「紫音」というグループで二胡を奏でてくれました。健康や昔話ばかりでなく音楽が入った楽しい一時があつて、あつという間に時が過ぎました。

終了間際には、生のピアノ伴奏による校歌を同窓生一同で合唱しました。一次会終了後懇親会場を別室に二次会を設定したところほとんどの人が参加し、各テーブルにはクラスを超えた楽しい会話で盛り上がりました。女子グループによるカラオケなどもあり楽しい一時になりました。

次回の同窓会は、3年後(令和4年4月初旬)白幡同窓会の招待学年として同窓会を予定し、会報「白幡」が届いたことによる招待状が往復葉書

に代わることを参加者一同で確認しました。

## 高校第三十七回

菊地 耕

平成最後に開催された記念すべき白幡同窓会に私たち高37回生(昭和60年卒)は招待されました。

桜の木々が優しく花を咲かせるヘアピンカーブの坂道を三十数年前のようにゆっくりと登っていくと不思議とあの頃の記憶がよみがえってきます。今では、我々の過ぎた鉄窓の旧校舎は新しい校舎に変わっていますが、伝統を感じさせる重厚な雰囲気はあの頃のまま。なつかしさを感ぜながら校門をくぐりました。

総会の式典に参加するたため、体育館に向かうと、3学年次に担任としてご指導いただき、本校の校長としてご活躍された大



竹喜四郎先生からお声かけいただきました。35年も前の生徒の名前のみならず、当時のエピソードなども覚えておられる先生は、見た目が当時とほとんど変わっておらず、その姿に驚かされるとともに、生徒愛の深さに感激いたしました。

総会の式典には我々よりもさらなる諸先輩方から、まだ若々しい後輩たち、そして、懐かしい仲間たちが集い、総勢約150名のにぎやかな会となりました。また式典では、在校生による応援歌や校歌が披露されました。女性の応援団長や華やかなチアリーディングによる応援歌や校歌に多くのOBやOGからあたたかな拍手と歓声が上がっていました。

総会後の37回生の懇親会は、龍ヶ崎市内の割烹「松泉閣」に移動しての開催となりました。懇親会から参加する同窓生も多くなりましたので、総勢約52名の大きな「宴会」となりました。卒業以来、35年ぶりに会う仲間も多く、「おお、久しぶりだなあ!」「うわあ、元気?」など、なつかしさとうれしさがあふれる声に包まれました。相手を呼ぶ声も当時のあだ名のままで、

タイムスリップしたような感覚を感じたのは、私だけではなかったようです。長い年月を経て、交わす会話はみんな高校時代と変わらない感覚で、それぞれの近況を報告し合ったり、昔話に花を咲かせたりとても楽しい会となりました。また、疎遠になっていた旧友との再会から、高校時代には交流がなかった同級生との新たな友達の輪も広がりました。

そんな楽しい時間は、本当にあつという間で、「またいつか再会しよう」という約束をして宴はお開きとなりました。

今回、初めて白幡同窓会に参加し、同窓生の絆を実感しました。そして、「自分には、さまざまなどころで頑張っている仲間がいる、俺も頑張らなければ!」という思いを新たにしました。きつと、このような思いを「母校の誇り」というのでしよう。今回、参加いただいた仲間達には本当に感謝しています。

最後に、このような素晴らしい会の開催のために尽力いただいたすべての方々に、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



### 剣道部OB会主催「白幡剣道大会」を開催

毎年恒例となっている剣道部OB会が、8月11日(日)に開催されました。例年、稽古会、総会、懇親会を行い会員相互の親睦を図ってきましたが、近年、高齢化が進み稽古会参加者、特に若手の参加者が減少していました。そこで伝統ある剣道部OB会を盛り上げるため、昨年役員の若返りを図り、小野泰之会長(第28回卒)を中心に新体制で運営することになりました。理事会で検討を重ねた結果、剣道部OBが指導している道場や剣友会、中学校等で稽古に励む小中学生を招待し、「第1回白幡剣道大会」を開催することとなりました。大会当日は、今春卒業したOB・OGをはじめ、若手を中心となつて審判・係員等運営に携わってくれました。大会は小学生の部、中学生の部(男女)の個人戦が行われ、60名が参加し大盛況でした。その後行われた総会、稽古会も50名を超える参加があり近年では最多の数となりました。

剣道部は過去には全国大会・関東大会の常連で、県内外で実績を残すとともに、全



国高体連の部長や全日本剣道連盟常任理事を務められた岡村忠典先生(第8回卒)、財団法人「相知館」館長で茨城県剣道連盟副会長を長く務められている金谷光躬先生(第5回卒)をはじめ多くの卒業生が茨城の剣道を牽引してきました。そしてこの4月に小倉培夫先生(第20回卒)が茨

城県剣道連盟の会長に就任されました。夕方行われた懇親会では小倉先生の就任祝いを兼ね、毎年常連となつたOBだけでなく、小倉先生の同期生、教員時代の教え子の世代もかけつけ約50名の大祝賀会となりました。

来年は本校創立120周年に加え、附属中学が開校する節目の年。今回の「白幡剣道大会」開催を機に、ますます剣道部、OB会がともに発展するよう活発な活動を行っていきたいと思います。

椎名 健司(高33回)

### 再来年の高校第39回同窓会に向けて

「○○さんの同級生ですよね。私もです。」各市町村の教育長も出席する会合があり、その司会をするなんて、慣れない仕事で緊張していた私に、ある一人の教育長が声をかけてくれました。確かに冷静になってみると、私よりも若く見えます。教育長といったら校長先生で退職した方がなるものだと思つてましたが、彼はなんと竜一の同級生でした。

このことがきっかけとなり、昨年の夏に教員をしてい

る竜一同期に声をかけて教育長の彼を囲む会をやりました。そして今年さらには多くの同期に輪が広がり、8月5日に牛久にある蓮根屋で2回目の囲む会を開催しました。懐かしい同級生や高校時代には話したこともなかった人とも話ができ、楽しい時間を過ごすことができました。

今年の4月から、私は教職員組合で働き出しました。すると、教員時代にはなかなか顔を合わせることもなかった懐かしい人達に出会う機会が増えました。そんなときに、高校3年のときの小さな同窓会に呼ばれ、四半世紀ぶりにあの頃の仲間たちと会いました。25年も経つても、あんまり人は変わらないものだと思います。見た目はちよつと変わってしまった人もいたけど(スキンヘッドになつて



る竜一同期に声をかけて教育長の彼を囲む会をやりました。そして今年さらには多くの同期に輪が広がり、8月5日に牛久にある蓮根屋で2回目の囲む会を開催しました。懐かしい同級生や高校時代には話したこともなかった人とも話ができ、楽しい時間を過ごすことができました。

自分自身が一番変わつていました。みんなあの頃のままでした。

聞くところによると、再来年は自分達が同窓会の招待学年にあたつていくとのこと。懐かしい顔に出会える日を心待ちにしています。

去年の教育長を囲む会の参加者は8人、今年は12人に増えました。その12人の中には自分たちが3年生の時に教育実習で竜一にいらしていた有川保先生(現在は弁護士をされている)も含まれていました。再来年の同窓会では100人も同級生に会えるかもしれないと思うととても楽しみです。

斎藤 義夫(高39回)

### 母校の思い出

冬枯れの中の白幡台遠景



高13回 田尻 明男

遙か西方に在るとされるその門がボンヤリと、しかし確かなものとして内なる眼に入つて来る年齢となつた私にとって、60年近く前の母校の



思い出といつても、既に微かな、しかも切々のものでしなくなりました。在校当時を振り返れば、受験勉強に明け暮れた3年間、が正直なところ。部活やスポーツ等を通じて友人も多く高校生活を謳歌した同級生もいました。が、私は進路別に組み換えられたクラスの限られた友人と付き合う程度で、受験という小さな世界にこもった自意識過剰で空想癖のある一人よがりの生徒でした。

しかし、そのような中にも楽しみや喜びはあって、登下校時に見かける女生徒にほのかな想いを寄せたり、午前の授業のあい間に弁当を済ませる快感(?)や冬のマラソン大会の自虐的な快感(!?)、体育祭での仮装大会の解放感

は私にとって充分に非日常的でした。当時は試験の結果が廊下に張り出されたりもしました。また、名物先生方の数学や英語、古文に歴史等の授業では、その口調や仕草から先生の渾名の由来が腑に落ちて、思わずニンマリなどしたものでした。

結局私は希望の一期校には失敗し、それ以上受験に抑圧された毎日を送るのが嫌で地元の大学に進みました。予期

したものは別な人生を歩くことになる、とは思いました。が妙にせいせいした気分でした。水戸、仙台、弘前と勉強や仕事で渡り鳥のように北帰行を続け、卒業後50年近く経って郷里に還って来ました。行く先々の街でテレビや週刊誌で時折竜ヶ崎一高の名を知る機会があると当時の記憶が蘇り、澄み切った青空の下、冬枯れの風景の中に凜として立つ白幡台と校舎の遠景が決まって脳裏に浮かんだものです。

高校も一過性の教育機関ではありませんが、苦しくてあれ楽しくてあれ、そこでの3年間は卒業生にとって極めて貴重な愛おしいほどの青春のエポックなのです。

**私の進路決定は**



高 13 回  
立澤恵美子

竜一高の合格通知を誰よりも喜んだのは母親だった。朝夕出会う一高生を羨望の眼でながめては、「娘も」との思いを強くしていたようだ。私も母の願いに応えたく努力し

た。

卒業して58年経ち、今心に強く残ることはと考えると、思い出されるのは定期的な実施されていた実力テストである。そのテスト結果が一覧表となり張り出される。誰の目にも成績上位者に女子生徒が多く含まれていることがわかるのだ。結果発表があるしあつたものだ。そんな時、いつも私達の背後から「女子は校内テストは好成績だが本番には弱いんだよなあ、あてにならないよ」と先生同士で話す声が聞こえてきたものだ。やっぱりそうなんだ、女子は本番には弱いんだと思ひ込むようになった。今思い返してもテスト結果発表毎に耳元で囁かれては納得せざるを得なかつたように思う。それなら私はどう対応すべきかと真剣に悩んだ末、男子を競争相手に選ばなければいいと自分なりに結論づけた。家庭科なら女子だけ、実力をそのまま認めてもらえそうだと考えた。当時の竜一高のカリキュラムにはない家庭科の勉強にも興味、関心を持つようになつていた。何としても負けたくない一心だった。大学受験は家政学部、その後の進路

は高校家庭科教員、初任校は竜ヶ崎二高、好ましい未来の家庭像や健康な食生活とは何かを高校生と一緒に追い求めた38年間、毎日が新鮮で充実した日々だった。

最近、医科大学での受験生の男女差別のニュースが報じられた。どんな経緯かは私には不明だが、女子受験生を差別して合否判定をしていたという。現に差別発覚後の最新の国家公務員の女子合格率は過去最高という。かつての先生方の言葉に、以前から男女の差別はあつたのかと妙に納得した。私の進路は別にして、竜一高で学び今日あることに深く感謝している。

**挑戦して得たもの**



高 13 回  
川田 久男

昭和三十六年三月あの白幡台を卒業して幾星霜、早や六十年の歳月が流れようとしています。私の心に残る高校時代の想い出は三年生の前期生徒会長として立候補、生徒会活動をすることが今でも鮮明に蘇ります。全校生徒が

集まつた体育館で生徒会長としての所信を述べ、又親友(岡野純明君)に応援演説を依頼したのが想い出されます。

それまでの自分は引込み思案で人前で話すのは苦手です。生徒会長に立候補するなんて今でも不思議な感じがします。想い出を辿ってみると当時生徒会顧問の沼崎茂雄先生から生徒会長に立候補するよう勧められたのがキッカケでした。他にも優秀な方が多くいる中、私なんかかと思ひ断つたのですが、私は当時進学を断念した時期で受験勉強の必要はなく、生徒会長立候補を決意したものでした。

前期のみの生徒会活動で、初めに生徒会費の予算配分、前年度並みが通例でしたが総会でもめることのないよう事前に各部長と打合せ、事前了解を取り付け総会に臨んだことを思い出します。次に硬式野球部の応援ですが生徒会が中心となり応援団を組織し先輩で大学の応援団長された方に指導を仰ぎ、石段の上から大きな声を出し身振り、手振りを習得、体育館で応援の練習を行った。県営球場での応援は学生服の応援団スタイルだったので暑かつたのを思い出します。



そして卒業後は担任だった齊藤邦彦先生の推薦もあり地元の金融機関に就職、社会人として一步を踏み出した。取引先の開拓、業務企画・立案・案件の審査と全てが未経験の事柄に取り組んだ。次の勤務先では商工会の合併という未知の分野の仕事にも携った。定年退職後は民生委員活動、地域ボランティア、町内会の仕事と新しい事に前向きに取り組めたのも恩師、上司、同僚に恵まれていたからですが、その原点は生徒会長に立候補したあの時にあると思っている。私にとって白幡台の雪月花は誇りです。

竜ヶ崎一高野球部の思い出



高 23 回  
飯田 三郎

昭和41年8月、中学2年の夏、竜一野球部は4年ぶり6度目の甲子園出場を果たした。この時のレギュラー5人が藤代中学の先輩だった事もあり、自分も竜ヶ崎一高に進学して野球部に入る事を決めました。

昭和43年3月、合格発表が

あるとすぐに野球部から呼び出しがあり、入学式前の春休みから練習に参加しました。初めて練習に参加した時の気持ちは今でも鮮明に覚えています。ボールが軟球から硬球に替った事で、グラブの芯で捕球した時のパンという乾いた音と、バットで打った時のキーンという高い打球音に感動を覚え異次元の世界に來たようなワクワクとした高揚感に浸りながら、毎朝元気がいっぱい自転車のペダルを漕いで白幡台のグラウンドに向かいました。但しこんな明るい気持ちで白幡台に向かったのは入学式前(春休みの間だけ)のほんの短い間でした。(入学式後は厳しい練習の日々が待っていた)

当時の竜一野球部は前述の通り44年ぶりに甲子園出場を果たし、その後もほぼ毎年のように関東大会に駒を進める県内屈指の強豪校でした。それだけに練習の厳しさはさまざまいいものでしたが、ひたすら『ハイ!!』と返事をして必死に練習についていきました。いまでも同期生と会食しながら当時の思い出話をする

と試合の結果よりも練習にともなう色々なエピソード(当時は辛かったが今は笑い話と

なつて)が次から次へと出てきて時間がたつのも忘れるほどです。私たちが1~2年生時は夏休み期間中40日間フルに猛暑の中で厳しい練習に明け暮れました。当時は水を飲むと『ばてる・・・』と言われて水を飲む事が許されませんでした。ただ、まったく水を飲まなかったかというと実はいろいろな方法を考えて事前に隠しておいた生温かい水を飲みました。(先輩に見つからないように・・・)

このようにただひたすら甲子園出場を目指した3年間でした。その結果私たちが3年生の夏の大会は茨城県代表になる事が出来ましたが東関東大会(当時は茨城県と千葉県で1校が甲子園出場)で千葉

県代表の成東高校に敗れて私たちの夏は終わりました。それでも良き指導者や先輩、同級生、後輩に恵まれ竜一野球部の厳しい3年間を耐え抜いた事は自信となり、伝統ある竜ヶ崎一高野球部出身という事は多くの場で認められ、誇らしい思いを何度も経験し、社会人になつてもそれなりに責任ある立場で仕事が出来た事は竜一野球部で過ごした3年間があつたからと感謝しております。

今の選手たちは、自分たちの時とはまた違った内容の厳しい練習があるのかもしれないが、是非とも頑張つて甲子園出場を勝ち取ってもらいたいと思います。

高校生の今しか出来ない事、またやるべき事に全力で取り組み『文武両道』を貫き、竜ヶ崎一高の生徒である事に誇りを持って悔いのない高校生活を送つて下さい。

私は現在竜ヶ崎一高野球部OB会々長として会員800名の皆様とともに、現役の選手・監督・部長が野球に専念できる体制・環境を整備する事を目標として取り組んでいます。

茨城県の高校野球はここ数年私立学校優位の状況が続いています。平成11年の選抜大会以来11回目の甲子園出場を果たしていただきたくOB会としてもできる限りのバックアップをしていきます。

(竜一野球部はこれまで夏9回、春1回、合計10回の甲子園出場を果たしている) また竜ヶ崎一高野球部は2022年に創部120年を迎えますので、記念誌を発行するために準備を進めているところで。皆様のご支援とご協力をよろしくお願いし

上げます。

(学校は1900年創立、野球部は1902年創部)

最後になりましたが精神的な忍耐力と成長の基盤を作ってくれた母校に感謝し、後輩が真に『文武両道』を実践し素晴らしい人生を築かれる事と竜ヶ崎一高の益々の発展をお祈り申し上げます。結びとさせていただきます。

されど甲子園



高 38 回  
足立 典生

高校時代の想い出といえ、ひたすら野球をしていたことでしょうか。一に練習、二に練習、三・四が無くて・・・、というような伝統の厳しい練習の日々であったと思えます。当時の監督の持丸先生からは、勝負への厳しさはもちろんのこと、取組姿勢の重要さ、仲間や道具等の尊重など、厳しいご指導の中でも選手個々に対し温かみのあるご指導をいただきました。 「甲子園」という目標達成はなりませんでしたが、苦楽を共にした仲間との貴重な体



験は、かけがえのない一生の宝となっております。持丸修一先生はじめ、当時の部長の故渡辺功太郎先生、顧問の大竹喜四郎先生、そして大野孝之先生(3年間クラス担任)には大変お世話になりました。

卒業して30年近く経ち、平成23年に息子が母校に入学し、私と同じ硬式野球部の門を叩きました。その当時、度々グラウンドに足を運びました。息子達を見てみると何とも言えない気持ちとなり、「ああ、このグラウンドで、もう一度やってみたいものだ」なんて思ったものです。自身の高校時代と重ねながら、選手達を観ている自分がありました。また、自宅に部屋干ししてあるRのユニホームを見ながら郷愁にふけ、酒が進んだこともありました。

息子は何とか3年間やり遂げましたが、親子で同じグラウンドで高校生活を過ごすことができたことは、大変うれしいものでした。

私は、現在、竜ヶ崎リトルシニア(中学硬式野球チーム)の監督しております。竜一高で経験したことが礎であることは言うまでもありません。甲子園を目指す選手を高

校に送り出すことが私の役割であるとも考えております。

毎年夏の大会には、Rのユニホームを着た後輩たちを観ることを楽しみにしております。近い将来、甲子園での雄姿を期待するとともに、母校の益々のご発展を心からご祈念申し上げます。

愛しき同級生よ



高 38 回  
江 寺 弘

竜一を卒業してから、はや三十三年余り。年月が経つのは早いもので、気が付けば自分もすっかり50代のおじさんになってしまいました。幸いなことに、私の一人の子供(長女、長男)とも、無事竜一を卒業させていただくことができました。ひとえに我母校に感謝するとともに、御指導いただいた先生方にも感謝申し上げます。

当時を振り返ってみると、私は決していい生徒ではなかったと思います。部活動も入らず、学業に専念したかといえはそうでもなく、何となく生活していたという感じで

した。ただそれでも学校に行くのは楽しくて毎日遠方(旧東村、現在の稲敷市)から通学していました。友人達との交流や学校の雰囲気が好きだったからだと思います。特に宮本先生には2年生、3年生と2年にわたり担任をしていただきました。最近お会いする機会が増えたのですがお元氣そうでなによりです。というのも、ご縁があつて、昨年までPTAの本部役員を引き受けさせていただきました。

まさか自分がそんな大役を担うことになるうとは夢にも思わなかったのですが、いざやってみると思わぬ同級生との再会や竜一を愛してやまない保護者との出会いがあり、大変嬉しく思います。在学当時ではそれほど感じなかった母校への愛情が、今になってひしひしと感じています。

今になってみると不思議なもので、高校生活を共にした同級生は特別なものがあり、在学当時は知らなくても三十二年を経て、実は同級生だったと知ったとたん、すぐに打ち解けることができました。何故だろうか?と考えた時に、そこには地位も立場も関係なく、ただ同じときに同じ校舎で学んだという思いだけで

繋がれるのです。素晴らしいことだと思いませんか?最後にありますが、竜一での高校生活は自分にとって人の宝物であり、生涯忘れることのできない思い出です。教育改革で中学校を併設するなどの変革がありますが、今後も竜一の伝統と発展を願っております。

野球部の思い出



高 53 回  
梁 谷 優一

「竜ヶ崎一高硬式野球部」、それは私にとって幼いころから憧れの存在でした。

そのきっかけとなったのは、私が小学校2年生の時に夏の甲子園出場を果たした竜ヶ崎一高の試合をテレビで観戦したことでした。あのゴジラこと松井秀喜が率いる強豪星陵高校と大接戦を演じた竜ヶ崎一高ナインの姿に感動し、将来自分も地元の竜ヶ崎一高に進学してエースピッチャーとして甲子園に出場したいと思うようになりました。それ以降、その目標に向かって突き進み、憧れの竜ヶ

崎一高硬式野球部に入部することができました。

高校に入学してからは一切勉強を捨て、野球の練習に励む毎日でした。当然、期末テスト等では赤点を連発し、よく先生にひどく叱られました(笑)。竜ヶ崎一高は県内でもトップクラスの進学校なので、元々勉強が得意ではない私が勉強で勝負したところで、他の優秀な学生達に勝てるわけがないと思っていたので、「野球だけは誰にも負けたくない」、「絶対甲子園に行くんだ」その誰よりも強い想いだけが自分の支えでした。

そのブレない想いと素晴らしい指導者、そして野球部のメンバーにも恵まれ、運も味方にして高校2年生の時に、秋季県大会で準優勝し、関東大会でベスト4に入り、第72回春の選抜甲子園大会にエースとして出場することができました。

試合は接戦の末、広島県の広陵高校に2対3で惜敗してしまいました。夢の舞台で野球部の仲間とかけがえのない経験を得ることができました。

勉強では、学校全体の偏差値を下げてしまい、大変迷惑をかけてしまいましたが、甲



学園に出場できたことで少しは学校に恩返しができたかなと思っ  
ています。高校生活では、野球部であ  
つても特別扱いすることなく、厳しく  
接してくれた先生方のおかげで、強  
い精神力を養うことができました。  
社会人になった今でもその経験が  
生かされています。先生方には大  
変お世話になり、感謝しています。

今度は、竜ヶ崎一高硬式野球部OB  
として、後輩たちに甲子園に連れ  
て行ってもらうことを夢見て……  
後輩がんばれ!!

### 鮮やかな思い出



高 53 回  
垣沼千亜季

数年前、ある日職場に「竜一の校長先生に連絡すること」とい  
うメモが置かれていました。驚いて  
電話をしたらかつての学年主任だ  
った小沼光一先生からでした。私  
が陶芸美術館で作品展示をしてい  
ることを知って連絡をくれました。  
高校へ遊びに来なさいよというので、その後本  
当に久しぶりに母校を訪れまし

た。昔は必死に自転車を漕いだ坂道  
を、車ですいすい登っていく。大人  
になった自分。学校内を歩くと、か  
つて吹奏楽部の部室だったプレバ  
ブ小屋は、射撃部の部屋に変わっ  
ていました。私が担任の先生を描  
いたクラスTシャツを褒めてくれ  
た小沼先生は、校長先生になっ  
ていました。卒業して20年近く経  
ち、色々変わるのには当たり前だ  
けれど、あの制服と夕方の空に響  
く吹奏楽部の音色は変わりませ  
んでした。

卒業してから時を経て、私は高  
校の教員になりました。ある日教  
員研修センターで研修を受け、ふ  
と後ろを振り返ると、かつての  
日本史の先生、辻先生がいました。  
先生は研修センターにお勤めとい  
うことでした。日本史の授業は黒  
板いっぱい内容を書き、必死に  
ノートを書いていました。授業で  
「ガガーリン」と答えたら褒めて  
くれたことを思い出しました。昔  
と比べて変わっているような変  
わっていないような驚きと共に、  
懐かしい再会でした。教員にな  
り、私は毎年野球応援の引率に  
行きます。夏の青空と緑の芝が  
広がる球場を見ると、いつも  
竜一の野球応援を思い出しま  
す。稀勢の里が横綱になった時、  
ふとテレビを見ると、龍ヶ崎  
市役所と共にかつての野球部  
ピッチャー染谷君が職員として  
映っていました。彼が春の選  
抜高校野球で投げた姿を皆で  
応援した記憶が蘇りました。大  
人になればなるほど高校での  
出来事は遠のいていきます。  
それでもふとした瞬間、ふとし  
た再会で竜一での青春が鮮やか  
に蘇ります。そしてあの時の  
出会いは今でも繋がっている  
のだなと、ここ数年よく思  
います。

### ご縁に恵まれた三年間



高 63 回  
坂本 裕紀

この執筆依頼を受けたとき、  
そもそも自分がなぜ竜ヶ崎一  
高に行こうとしたのかなど疑問  
に思いました。一ヶ月以上時間  
はかかりましたが、家族や親  
族が竜ヶ崎一高であつたご縁  
もあり、学生時代の楽しそう  
な話を聞き、中学入学当初か  
ら「私は竜ヶ崎一高にいく」と  
思い込んでいたことを思い出  
しました。無

事に入学することが決まったとき、  
家族含め親族みんな喜んで  
今でも覚えていいます。嬉しい  
気持ちで入学したのですが、  
テスト結果は下から数えた方  
が早いという残念な成績の学  
生でした。ただ、これだけは  
絶対にいえることがあります。  
それはご縁に恵まれた三年間  
であつたということです。先生  
方はじめ先輩方、後輩、そ  
して大切な友人に恵まれ  
楽しい日々を過ごすことが  
できました。クラスでは、進  
路の関係で二年、三年とほ  
ぼ同じクラスメイトだったた  
め、男女関係なくとも仲の良  
いクラスで、笑いが絶えず毎  
日が本当に楽しかったです。  
部活動では、夏は暑さ、冬は  
寒さと戦いながら、プレハ  
ブで三年間吹奏楽に打ち込  
んだ日々がとても楽しく、些  
細なことまで鮮明に覚えて  
います。

社会人になった今でも、ク  
ラスや吹奏楽部の同期では、  
毎年必ず集まっています。集  
まる度に当時のエピソードな  
どを振り返り、笑い合いな  
がら楽しく過ごしています。  
また、白龍祭では白幡同窓  
会として、父と一緒に毎年親  
子で参加しています。白龍祭  
後の打ち上げでは違う世代  
ながら竜ヶ崎一高という共通  
点で盛り上がるのは、竜ヶ  
崎一高だから出来ることであ  
ると確信し、卒業生であるこ  
とを誇りに思っています。

### 母校と私の人生



高 21 回  
木村 繁男

卒業して五十年  
自分の年齢から推測すると  
卒業してから五十年になる  
らしい。確か二十一年卒業  
になるのではないかと  
思う。同窓会誌が送られてく  
ると、当時の我々の学生生活  
と比べると、比較し、隔世の  
感に打たれる。それでも、  
我々には我々の青



春があつたことを記憶のからたから呼び起こしてみようと思ふ。歳をとると思ひ出話になるのが世の常である。

先ず思ひ出すのが、甲子園出場である。野球が特に好きというわけではなかったし、元来運動はあまり得意ではなかったもので、出場が決まるまで関心もなかった。当時は茨城と千葉で出場枠が一枚だった

ので、大抵は千葉県の高校が出場していたように覚えている。甲子園出場が決まって町中が大騒ぎになった。テレビ、新聞では「古豪復活」の見出しが乱れ飛んだ。ところが当時吹奏楽団がなかったの

である。困り果てた高校側は中学時代に吹奏楽をやっていた学生をかき集めて、即席の吹奏楽団をつくることになつた。私も中学時代にユーホ

ニウムという低音域のラッパを吹いていたので、担当者がいなかったチューバを吹くことになった。十人位の編成だったと思う。レパートリーは校歌と行進曲が数曲

だった。我々にとつて甲子園が初デビューとなった訳である。幸い一回戦は接戦の末勝利した。二回戦までの十日ほどは京都に宿泊して練習を積むということになり、一同大

変喜んだ。ところが、天候が不順で、第一試合までもつと伸びるといふことになり、いったん帰ることになつて、今度は酷く落胆した。第二試合は関西の強豪(報徳?)と

当たり惜敗した。私はその後ブラサブンドからは離れたが、クラブは細々と続いていたように思う。

もう一つは「地学クラブ」の思い出である。普段はあまり活動してなかったが、夏休みに、岩石資料収集の名目で、秩父、浅間、妙義山などへの登山を実施した。この時に登山の面白さを覚えた。金沢に

来てからも、標高千メートル位の余り難しくない山には時々登っている。顧問は蜂須先生だった。蜂須賀小六の末裔であるとかないとかいふ噂があつた。因みに担任は三年

間を通して南畝先生だった。俄か吹奏楽団の顧問も南畝先生だった気がする。現国の中沢先生とはいまだに賀状のやり取りをしている。中沢先生には文学とクラシック音楽に

目を開かせていただいた。登山と文学と音楽への関心はいまだに持ち続けている。高校の三年間が私の人生における「嗜み」を定義したと言つても過言ではない。私の記憶の

中では、先生方は少しも歳をとらず、昔の風貌のままである。

(公立小松大学副学長)

思ひ出すままに



高 27 回 櫻井 義夫

私は、昭和五十年卒業です。その頃は、まだ、戦後四半世紀を超えたばかりですが、日本は高度経済成長を遂げ、海外旅行がブームになっていたころです。

一 初体験

当時テレビでは、海外旅行を目玉にしたクイズ番組が全盛で、今では考えられない事ですが、「一〇問とつて、夢のハワイへご招待」と言われるほど。海外旅行は遠い世界の話だったので。私もせつせとクイズ番組の予選に応募したもので、その中で、フジ

テレビの「クイズグランプリ」という番組の高校生大会の予選に呼ばれました(この番組の司会者は、俳優の船越英一郎氏の父親だったことが時代を感じさせます)。私は、フジテレビの場所を道路地図で

調べ、新大久保駅から、当時新宿区河田町にあつたフジテレビまで、大久保通りを小一時間歩いて行き、ペーパーテストを受けました。「合格者には、後日連絡する。」とのことでしたが、多分無理かなとの思いで、帰り道、どのように帰ったか記憶にありません。

二 法曹界を目指した理由

高校三年間は、将来の方向性をいやが応でも決めなければならぬ時期でしょう。私は入学時には、将来、漫然とではあるけれど、海外を見ることのできる新聞記者などを考えていました。その動機は単純で、小学校の修学旅行で見学した某新聞社の社屋が皇居わきであり、説明に当たつてくれたお姉さんがまた美人だった(気がする)からです。そのような次第で、深い理由もなかったもので、高二の夏休み、中学時代の友人に会つた際、彼が、大学は法学部に行き、司法試験を受ける、と言われ、私も志望を変えてしまいました。単純にライバル心からそう思っただけで深い理由もなかったのですから、今なら、あの時の自分に「止めたほうがいいよ。」とアドバイスしたい気分です。

三 現在の私

私の妻は、東京生まれの東京育ち、ネオンが大好きな性格で、私とは、ほぼ正反対です。その妻が竜ヶ崎一高を知っていて少しいと縁がある。妻は後輩で既に弁護士になつていた大貫さん(彼は剣道部出身で、ニューヨーク州弁護士資格もある秀才)と知り合いであるという。世間は狭い。妻は、「竜一の剣道部は優秀なのね」といので、私は「その通り」という。最近、青学大に進み、箱根駅伝で活躍した森田君のおかげで「陸上部も優秀だったのね」と言われ、この点には大いに反論し、妻とワインを一本空けてしまうことにな

る。どうやら、竜一高が私に与えた最大の影響は、当時ラブレターなどというものに縁がなかったせい、年齢と伴に、「これが運命の人」との思い込みが強くなり妻と結婚したこと、そして、竜一高時代を語っては話が尽きないこと、かもしれません。

(第一東京弁護士会所属弁護士)



修練の場



高 33 回 繁 千葉

私が竜一高を目指したのは、甲子園に行きたいとの強い思いからでした。小さい頃から野球が大好きで、「将来は野球選手になりたい」と少年時代から抱いた淡い夢の現に向けての進路選択でありました。我々の中学校時代、特に県南地区の多くの野球部員は、竜一のユニフォームに憧れました。アイボリーの上着の胸にはRの一字、帽子は紺色で金色のRの刺繍、アンダーシャツ、ストッキングは紺色と特に派手さはありませんがとてもカッコ良いユニフォームです。今もなお変わっていない伝統のもので

れ、退部も懸念される状況に陥りました。しかし、持ちこたえることができたのも、家族の応援や先生、同級生の励ましのおかげだと感謝しています。特に野球部監督持丸修一先生には、大変にお世話になりました。練習では「根性なし」と叱咤激励を受けめげそうにもなりましたが、練習後は笑って優しい言葉をかけてくださいました。私は、竜一高野球部で多くのことを学ばせていただきました。特に「何事にも諦めず挑戦していく勇氣」が私の大きな礎になっています。現在、私は自治体の首長を務めておりますが、野球部時代の経験や教えは大変に役に立っております。特に野球部時代の苦労は、困った人へのやさしさにも繋がり、このことは行政の一番大切なことだと感じています。また、社会に貢献する人材の育成という教えは、普通の教育でありませぬ。先輩、後輩とも様々な分野で活躍されており、野球部OBの人脈は計り知れないものがあり、これが竜一高野球部の伝統だと誇りに思っています。

究機関、自治体、各種団体など、多くの組織で同窓生が活躍されています。なかでも根本洋治牛久市長・中山一生龍ヶ崎市長をはじめ、行政の場で活躍されている方々がたくさんおられます。現在の行政は、効率化や住民サービス向上の観点などから広域で行う事業が増えており、その協議を行う際にも近隣自治体に同窓生がいるということは、とても心強いことです。これからも校訓である「誠実・剛健・高潔・協和」を重んじ、同窓生が社会の発展のため、それぞれの分野で活躍することが伝統を継承することになります。そしてそれが我々の母校に対する最大の恩返しになるものと考えます。

元号が令和に代わり、新時代が幕を開けました。母校も来年で創立120周年を迎えます。これからも地域に根差し、リーダーとして新たな時代のニーズに応える人材を数多く輩出することが求められます。竜一高の益々のご発展と白幡同窓生のご健勝でのご活躍を心よりご祈念申し上げます。

(阿見町長)

トピック①

茨城県剣道連盟会長に就任して



高 20 回 培夫 小倉

この度、茨城県剣道連盟の会長にご推挙頂きました。浅学非才な私にとつて重責であり身の引き締まる思いです。この大役を、発足以来の足跡を辿りながら、微力ではありますが本連盟発展のためにお役に立ちたいと思っております。

私が剣道を始めたのは、新利根中一年生からで、高校に入学したのが昭和四十年である。自宅から片道約十五キロのジャリ路を毎日自転車で通学したことが、体力の増強になった。剣道部に入学した同級生は二十数名、今でも毎年十名前後で集まり、なつかしい話で盛り上がる。顧問は佐藤清先生、佐藤至良先生で、伝統ある竜一高剣道部の稽古は切り返し、掛かり稽古が中心の厳しいものでした。私達1年生は剣道道場でなく講堂やグラウンドで気合や素振りの練習から始めた。中でも一番心に残っているのが夏の合宿である。掛かり稽古の数を競い合い体力の限界まで先輩に稽古をいただいた。お陰で県大会優勝をはじめ関東大会にも出場することが出来ました。県高校総合体育大会、当時は土浦市営球場において、全県高校が入場行進するイベントでした。私は竜一高の団長を務め、各運動部活躍により「総合優勝」に輝いたことは今でも素晴らしい思い出となっています。

県立高校教諭として昭和47年下館工業高校に赴任、谷田部高校、藤代高校を経て、平成7年4月、私は希望に胸を膨らませ母校である竜一高に赴任した。剣道部の生徒の目は輝き、一人ひとり堂々と歓迎の言葉を述べてくれたことが思い出される。当時の剣道部は男子2名、女4名で過去の栄光はそこにはなかった。前任校(藤代)では全国大会、国体、関東大会等に出場させ、県高体連剣道部専門委員長の職にあり、大会に出場出来なくては名門竜一高の名が恥ずかしい・・・それで退部した生徒や新入生を集め出場したものの結果は言うまでもありません。平成8年、男女



六名の新入部員を迎えた。中学時代の実績は何もない生徒達であったが、スポーツマンとして欠くことの出来ない健康な身体と明るい性格を備えた生徒であった。「よし、この生徒達と共に、私の力の限り頑張ろう」と心に誓い新たな出発をした。それは生活の基本となることから指導した。技術面では劣ろうともマナーは県下一と言われるようなチームを目指した。翌年から部員も徐々に増え始め、毎年約30名の剣道部になった。しかし、当時は学年主任、指導部長、教務主任に選任され、部活動の指導も十分に出来なかつた。教務主任最初の年は、春の選抜野球で甲子園に出場し、10月には創立100周年記念式典と貴重な体験をすることが出来ました。

結びに「心を鍛え 身を錬りて 忠良有為の基たてん」これは校歌の5番の最後の歌詞である。「心身一如のライフスタイルを構築し、善良で役立つ、有能な人材の基礎をつくる」という本校の伝統である。この伝統の基「竜一高」「白幡同窓会」がますます発展・充実することを祈念します。

### トピック②

#### 旧職員の小田部雅子先生 茨城県芸術祭文学部門 茨城新聞社賞を受賞



令和元年度茨城県芸術祭文学部門において、小田部先生がその歌集『水と光』により茨城新聞社賞を受賞しました(茨城新聞十一月三日参照)。

小田部先生は、在職期間(平成元年四月〜一六年三月)のほとんど、生徒たちと最も正対して向き合えるクラス担任を希望し、その凛とした厳しさの中に生徒に対する深く温かい愛情を常に抱きながらご指導にあたられました。

また、国語科教員として、ことばの持つ力と意味、文章を通しての奥深い理解、そしていかに自分自身がそれをどう感じ、考え、表現するかなど、生きるということ、突き詰めれば人生や社会そのものに対する考え方など、生徒たちに大きな影響を与えてくださいました。

さいました。

小田部先生は、一九八二年に「コスモス」に入会、一九九二年に歌集『春の音叉』、二〇〇一年に『正しい円』を出版そして今回第三作『水と光』(六花書林二〇一九年五月)の出版に至りました。

ここに、竜一在職時代の作品を含め三首、ご紹介します。

- ・ 病む猫をおいて勤めにゆく道にふとわかる 悲しみが恋に似ること
- ・ 制服の衿にぼろつと涙垂れ少女よ明日はわれを忘れん
- ・ かなしみはしんとしづかなゆふぐれの河原の石の陽のなごり熱

歌集の帯に、「時に伝統的技巧も試み、時に厳しく時代を見つめ、繊細というよりは逞しく太々と温もりのある歌群」と評された形容は、まさに小田部先生のお人柄そのものであるように感じます。



今は静岡に転居され、写真のように明るく元気で過ごしてのことと、現在も当時の教え子たちとの交流があるそうです。

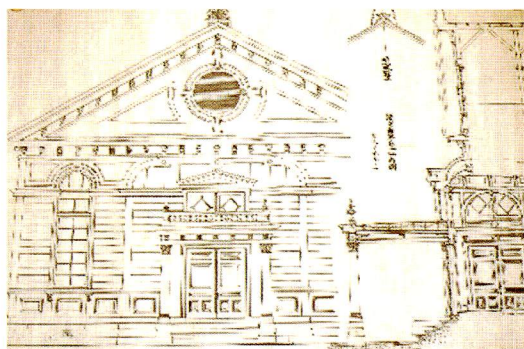
川口 浩己 (高29回)

### トピック③

#### 竜ヶ崎一高「講堂」の研究成果

旧職員 小野 威人

講堂とは、学校の儀式や学校行事等の集会場として建立された建築物です。竜ヶ崎一高にかつてあった講堂の設計者は、東京帝国大学を卒業した駒村勤治、東京駅を設計した辰野金吾の教え子にあたります。旧制龍ヶ崎中学校の創立4年後の明治三十七(一九〇四)年に建てられました。資料1は竜ヶ崎一高に所蔵される一六枚の設計図のうち一枚で、講堂正面が描かれています。「茨城縣立講堂新築第二矩計圖」と名付けられた二十分の一図です。設計図には校名が書かれていません。同じ設計図を用いて水海道中学校、太田中学校、水戸高等女学校の計4校が建てられましたと語り継がれてきました。これまで4校の



(資料1)

講堂を本格的に調査したことがありませんでした。

平成二十八(二〇一六)年度、高校七〇回生である生徒五名が講堂の調査・研究に取り組みました。同窓会総会でアンケート調査を行い、倉庫に残されていた「鬼瓦」などの部材を文化祭(白龍祭)展示するなど、人々の目に触れず「まぼろし」の存在であった講堂の存在を在校生・同窓生に伝えました。そして、講堂の資料を求めて水海道一高と太田一高を訪れて調査を進めました。水海道一高では、画像・文献資料を収集するため、太田一高には、巻き尺を携えて、設計図の図面に書かれていた寸法を現在の単位に





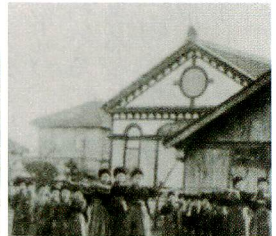
(資料5)



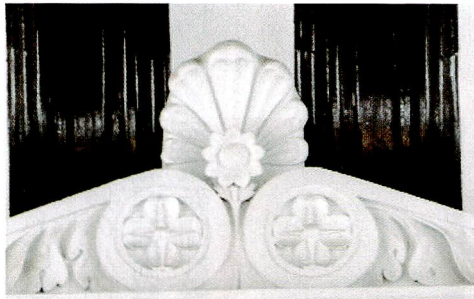
(資料4)



(資料3)



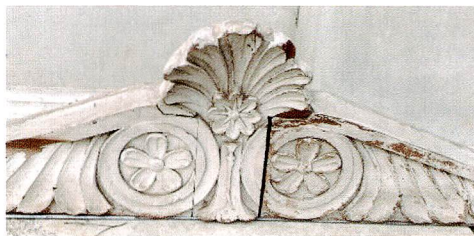
(資料2)



(資料7)



(資料8)



(資料9)



(資料10)



(資料6)

直して外寸と内寸を実測するため現地調査を実施しました。水戸高等女学校は現在の水戸二高です。残念ながら大正七(一九一八)年に水戸市内の大火により焼失してしまいましたが、文献

でその姿を確認することができず。資料2〜5は各校の講堂の外観を写したものです。外観からは、各校の講堂が同じ設計図を用いて建てられた可能性の低いことが窺えます。水海道一高の調査では、残されていた講堂の部材を再確認しました。講堂の部材は校内でも忘れられた存在だったようです。

内寸の誤差、装飾の意匠の変更を指摘したのは、生徒たちが初めてで、大きな成果をあげました。資料6は生徒たちの採寸の様子、資料7〜9は装飾の同一部分をしめしたもので、意匠の違いがよく分かります。研究は約一万六千字のレポートにまとめ、東京都板橋区教育委員会主催の櫻井徳太郎賞に応募、最優秀賞を受賞しています。講評では、「東京帝国大学で教鞭をとっていた辰野金吾の教え子が、技術者としてどのような実績をあげていたのかを研究するきっかけとなる、すばらしい取り組みである」と高い評価を受けました。当日行われたプレゼンテーションでも、発表内

容について板橋区長から高い評価を受けました(資料10)。受賞会場で講堂の研究に高い評価をいただいた審査員の一人から、自身が関わるNPO法人(頸城野郷土資料室)のオンラインジャーナルへの寄稿を勧められました。生徒たちは、受賞したレポートより四千字多い二万字の内容に再編集して投稿し、「資料紹介」として掲載されました。さらに、メンバーの一人がレポートの英訳に挑戦して投稿したところ、「ディスカッションペーパー」(査読なしの論文)として掲載されました。竜ヶ崎一高の講堂の威容は、国内のみならず海外に発信されています。

令和元(二〇一九)年は、駒杵勤治の没後百年にあたります。そこで、三月に設計図の生徒たちと破損度調査を行いました。設計図の保存は喫緊の課題です。また、竜ヶ崎一高の創立百二十周年の節目にあたる令和二(二〇二〇)年に合わせて、駒杵の功績を後世に残すためにこれまでの研究成果を一冊の書籍にまとめることができればと考えております。みなさまのご支援を賜ることができれば幸いです。

(竜ヶ崎二高教諭)



トピック④

永平寺に

永田春水画伯の天井絵

永平寺の傘松閣に願いが叶う5枚の天井絵があることをご存知でしょうか。

観光ガイドツアーで永平寺の傘松閣を訪れた際、ガイドさんは天井を示しながら、次のように説明してくれました。

「昭和5年の二祖国師650回忌を記念して新築された傘松閣の天井には当時の日本画家144人による230枚に及ぶ花鳥の絵がはめ込まれています。」

230枚のほとんどは花鳥の絵ですが、その中に魚を含めて動物を描いた絵が5枚あります。その5枚の絵をすべて見つけると願い事が叶うといわれています。ぜひ見つけてください。」

それではと思い天井を見上げてその絵を探そうとしましたが、そう簡単には見つかりませんでした。疲れた首を廊下に向けたところ、壁に230枚の絵のパネルがあることに気づきました。

ガイドさんがいう5枚の絵を探し始めたら、すぐに栗鼠を描いた絵が見つかりました。

葡萄の蔓の上で尾の長い栗鼠が熟した葡萄の実を見つめているとても繊細な筆遣いの絵でした。



(葡萄に栗鼠)

しかし、驚いたことにその絵を描いたのは永田春水画伯でした。パネルには天井絵の配列図と揮毫者名が書かれています。そのため『葡萄に栗鼠』という作品名の天井絵を探すことは容易でした。永田画伯は『葡萄に栗鼠』のほかにもう一枚『椿に文鳥』という作品も揮毫していました。



(椿に文鳥)

これから永平寺に訪れる方は、ぜひ願いが叶う5枚の天井絵を探してみてください。2020年が没後50年となる永田春水(本名 良亮)画伯は、旧制中学第3回の卒業生です。竜ヶ崎一高には「雪

笹とヒヨドリ」と「ザクロと花」の2作品が所蔵されています。倉持 正男(高27回)

高崎高校訪問記

山崎 睦(高31回)

令和元年8月6日に染谷會長ほか3名の同窓会有志で群馬県立高崎高校を訪問してきました。現地では高崎高校同窓会会長をはじめ同窓会の役員の方々や校長先生と情報交換を行いました。同校は明治30年の創立で卒業生には元総理大臣の福田赳夫氏と中曽根康弘氏をはじめ多くの著名人を輩出している歴史と伝統ある男子校で、地元では「たかたか」と呼ばれ親しまれている学校です。(現在高崎高校には通信制がありこちらは男女共学です。)

学校に到着すると校門正面の校舎の先には妙義山が右に目を移すと榛名山、さらに右手に赤城山の上毛三山が一望のもと見渡せ、この風景が文化祭、同窓会館などの名称に使われている「翠巒」の由来であることはすぐに分かりました。また、校門右手にある指月庭というバラ園は同窓会の援助で改修されたもので訪問した時はバラが満開ではな

かつたのですが、手入れが行き届いていて同窓会と在校生の学校を思う気持ち伝わってきました。校舎に入ると玄関では高崎らしく「大願成就」と書かれた大きな達磨がお出迎えしてくれました。

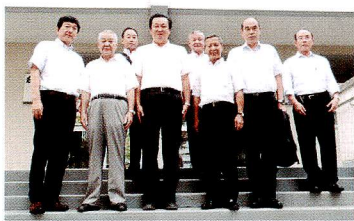
学生生活の面では、学習実績はもちろんですが文化部系が24部、運動部系が19部あり部活動も盛んで、平成28年には県高校総体では県立高校でありながら総合優勝、ラグビー部は国体2度の優勝、花園では3位という実績を持っています。また、文化祭(翠巒祭)も盛大で開催される土日の2日間で毎年2万人近い来校者があるという一大イベントになっています。そして、伝統的な行事として前橋高等

学校との定期戦があります、両校は古くから良いライバル関係であり定期戦が伝統として今でも残っています。昔の定期は騎馬戦などもありかなり激しい戦いだったようですが、今は運動部の対抗や玉入れ、綱引きなど全校生徒が参加して交流をしているということです。

昭和10年に発足した同窓会は、現在、会員総数32600名で翠巒会館(同窓会館)を拠点として支部同窓会、(公

財)翠巒育英会、翠巒体育会などでもそれぞれが活動を行っています。1月に行われる総会には毎年800名ほどの参加者があり親睦を深めているようですが、以前は出席者が100名くらいの時代もあったというところで、開催方法など試行錯誤して現在のよ

うな総会になったということです。他に毎年200名ほどが参加して開催されるゴルフ大会、各支部での支部会など活発な活動を行っているようです。また、学生時代に行われていた前橋高校との定期戦は、高校を卒業した後もOB対抗ゴルフ大会として毎年行われ高崎高校だけでなく前橋高校OBとの交流も続いているそうです。



今回の訪問では、同窓会の運営方法などいろいろと参考になる話を聞くことができました。白幡同窓会でも取り入れたいと思います。



### 白龍祭・白幡同窓会

#### 恒例の餅つき出店

「竜一DNA共有」50人が集い愉しみました!

令和元年水無月初日の6月1日は土曜日。好天の白幡台には高28回から67回まで、その数実に50人余の同窓生が駆け付けました。白龍祭への餅つき出店が始まったばかりの頃は20人にも満たない参加者数でしたが、歳月の重なりがすそ野を広げてくれたようです。特に今年は、定時制OBが初めて参加してくれました。

餅つきイベントの魅力は、全員の力を結集して作り上げること、これに尽きます。事前準備から始まり、蒸かしてこねてついて丸めて味付けて、パッキングし販売。一連のプロセスそれぞれに、竜一DNAを全身に刻み込んだOG・OBの熱き息遣いが「注入」されました。

午前9時の白龍祭開始と同時に餅つきもスタート。とはいってもそこは久しぶりの母校、参加者を前後半で餅つき組と見学組の2班に分けました。水を得た魚のように前半見学組が懐かしのキャンパスに散らばります。あの頃のご

自分に巡り逢えましたでしょうか?

前半餅つき組、若手OBが元氣いっばいに杵を振り下ろすたびに「ポーン」という小気味いい音が深緑の白幡台にこだまします。そこに彩りを添えるのは「いらっしやいませ」。「つきたてお餅、いかがですか」とこれまた元氣な声。合間には現役生徒の飛び入り参加もありました。数年後にはぜひ、こちらの仲間入りをしてほしいものです。

この日のメニューは磯辺巻きと黄な粉の定番2種類で、昼近くなるとお腹をすかせたお客さんが大行列。後半見学組も合流し全員が力を結集して餅づくりフル回転です。あまりの売れ行きにパックや海苔が足らなくなる緊急事態も。急ぎよのバイク買い出し3往復で何とか乗り切ったほどでした。

午後1時過ぎには用意した餅米60キロすべてをつき終わりました。心地よい疲れと達成感そして一体感が漂う中、売上金はなんと過去最高の8万4000円以上! 大盛況ぶりが数字でも裏付けられました。なお、収益は全額生徒会に寄付、後輩たちのため

に役立てていただきます。後片付けが終わると、会場を弥助寿司に移して反省会。

こちらでも大勢の参加で盛り上がり、自己紹介後は白幡台での思い出話に花が咲くなど、一層の絆が深まったようです。フィナーレは当然お決まりの校歌。応援団OBの華麗なりードで千秋の雪積もりたる♪ 来年の再会とネットワークのさらなる広がりを約束し、愉しくも密度の濃いそれぞれの日が幕を閉じたのであります。

大野 雅之(高30回)



### 白幡同窓会ホームページ紹介

白幡同窓会ではホームページを公開し様々な情報を発信していますが、新たに特設ホームページを創設しましたので紹介させていただきます。

[http://www.shirahata.sakura.ne.jp/120th\\_anniversary/](http://www.shirahata.sakura.ne.jp/120th_anniversary/)

竜ヶ崎一高は令和2年度に学校創立120周年を迎えます。これにあたり同窓会では「竜ヶ崎第一高等学校創立120周年 応援サイト」を創設しました。ここでは節目の創立記念に際して行われる記念の事業・行事、また、明治33年創立当時から学校のあゆみを紹介しています。新たな発見があるかもしれません。ぜひご覧ください。

創立120周年を記念してロゴマークも創作しました。創作者は高校31回卒業生です。



作者コメント  
校章の二頭の龍をよく見てみますと、そのユニークな姿に驚きます。創立120周年にあたり、誇り高い伝統を基盤に、将来を見通し優れた直感力で突き進むイメージを抱きました。若々しく未来を思考し、のびやかで、ユニークなイメージをロゴマークに込めさせていただきました。

これからも白幡同窓会ホームページはネットならではの特徴を生かしながら充実させてまいります。ぜひ御意見、御感想をいただければ幸いです。 同窓会校外幹事 櫻井 篤美(高29回)



このQRコードからホームページにアクセスしてください。







# 進路状況

京都大	1名
大阪大	2名
東北大	3名
筑波大	12名

## ○十年連続国公立百名越え

平成最後の受験生となった七十一回生は、一人ひとりが努力を重ね続けた結果、国公立大学に現役で百二十名の合格者が出ました。これは過去十年の中で四番目に多く、もちろん数の多いことや国公立大学の数が全てではありませんが、生徒それぞれが自分の進路実現に向かって歩み続けた一つの結果であると考えます。私立大学においても早慶上理をはじめとして難関大学に多数合格しており、進路先についてはそれぞれ色々な目標をもって頑張り、生徒たちは一回り成長して卒業していったくれました。さらに、再挑戦を目指して頑張り続けてきた過年度生も奮闘し、京都大や東工大、早稲田大、慶応大学などへの合格を果たしています。

## ○医学部合格

また、ここ数年合格者の出

ていなかっただ医学部医学科についても、過年度生から出たことは特記すべきことであると思います。ぜひ医師不足が深刻な茨城県へ戻って地域に貢献してもらえたらと期待しています。

## ○全国的な安定志向の中で

昨年度は新入試が迫っていることや私立大学の定員厳格化の影響が非常に大きく、全国的に受験校の安定志向が働いた年でした。本校においてもその傾向が少なからずありましたが、旧帝大・東工大・一橋大・神戸大のいわゆる難関十大学に挑戦した人数は、直近三年間で一番多くいました。全員が望むような結果にはならなかったとはいえ、時代の流れがどうあれ、自分の信念をしっかりと持って進むことのできる竜一生らしい一面も感じることができました。

## ○本校での取り組み

本校独自の進路指導プログラム、通称「Rプログラム」

にそった丁寧な指導をベースに、生徒の実態に合わせ各学年において様々な工夫をしながら支援を続けています。

## ○また、卒業したてのOB・OG達に

自分の受験勉強や大学生活を後輩達に語ってもらう「Rガイダンス」を六月の三年生向け、年明けの二年生

## ○電一新時代へ向けて

次年度から大学受験が大きく変わります。大学入試共通テストの導入等、それに伴う

## ○また、卒業したてのOB・OG達に

自分の受験勉強や大学生活を後輩達に語ってもらう「Rガイダンス」を六月の三年生向け、年明けの二年生

## ○また、卒業したてのOB・OG達に

自分の受験勉強や大学生活を後輩達に語ってもらう「Rガイダンス」を六月の三年生向け、年明けの二年生

## ○また、卒業したてのOB・OG達に

自分の受験勉強や大学生活を後輩達に語ってもらう「Rガイダンス」を六月の三年生向け、年明けの二年生

## ○また、卒業したてのOB・OG達に

自分の受験勉強や大学生活を後輩達に語ってもらう「Rガイダンス」を六月の三年生向け、年明けの二年生

向けと二回実施しています。数カ月前まで一緒に学校で生活していた先輩方が堂々とスピーチをしている姿は、生徒たちにとってはとても良い刺激であると同時に、受験や大学を身近に感じるには有用な機会となっています。ガイダンス終了後の控室には先輩への質問でこたえ返している様子は、竜一生の縦のつながりの深さを再確認できます。

## ○電一新時代へ向けて

次年度から大学受験が大きく変わります。大学入試共通テストの導入等、それに伴う

## ○また、卒業したてのOB・OG達に

自分の受験勉強や大学生活を後輩達に語ってもらう「Rガイダンス」を六月の三年生向け、年明けの二年生

## ○また、卒業したてのOB・OG達に

自分の受験勉強や大学生活を後輩達に語ってもらう「Rガイダンス」を六月の三年生向け、年明けの二年生

## ○また、卒業したてのOB・OG達に

自分の受験勉強や大学生活を後輩達に語ってもらう「Rガイダンス」を六月の三年生向け、年明けの二年生

## ○また、卒業したてのOB・OG達に

自分の受験勉強や大学生活を後輩達に語ってもらう「Rガイダンス」を六月の三年生向け、年明けの二年生

## ○また、卒業したてのOB・OG達に

自分の受験勉強や大学生活を後輩達に語ってもらう「Rガイダンス」を六月の三年生向け、年明けの二年生

各大学の入試形態の多様化。さらに本校は四月から付属中学校が設置され、まさに変革の年となります。そのような新しい時代にあって、一二十年の伝統やノウハウで色褪せていないものは多くあります。一方で、常に生徒の今必要な能力の指導の創出や、SSHの二期目指しを受け、今の社会で求められる探究心の涵養に取り組み、温故知新を地で行きながら学校全体が一丸となって生徒の進路実現に向けて進んでいきたいと思えます。

## 室津 彰信(高48回)

各大学の入試形態の多様化。さらに本校は四月から付属中学校が設置され、まさに変革の年となります。そのような新しい時代にあって、一二十年の伝統やノウハウで色褪せていないものは多くあります。一方で、常に生徒の今必要な能力の指導の創出や、SSHの二期目指しを受け、今の社会で求められる探究心の涵養に取り組み、温故知新を地で行きながら学校全体が一丸となって生徒の進路実現に向けて進んでいきたいと思えます。

## 室津 彰信(高48回)

各大学の入試形態の多様化。さらに本校は四月から付属中学校が設置され、まさに変革の年となります。そのような新しい時代にあって、一二十年の伝統やノウハウで色褪せていないものは多くあります。一方で、常に生徒の今必要な能力の指導の創出や、SSHの二期目指しを受け、今の社会で求められる探究心の涵養に取り組み、温故知新を地で行きながら学校全体が一丸となって生徒の進路実現に向けて進んでいきたいと思えます。

## 室津 彰信(高48回)

各大学の入試形態の多様化。さらに本校は四月から付属中学校が設置され、まさに変革の年となります。そのような新しい時代にあって、一二十年の伝統やノウハウで色褪せていないものは多くあります。一方で、常に生徒の今必要な能力の指導の創出や、SSHの二期目指しを受け、今の社会で求められる探究心の涵養に取り組み、温故知新を地で行きながら学校全体が一丸となって生徒の進路実現に向けて進んでいきたいと思えます。

## 室津 彰信(高48回)

各大学の入試形態の多様化。さらに本校は四月から付属中学校が設置され、まさに変革の年となります。そのような新しい時代にあって、一二十年の伝統やノウハウで色褪せていないものは多くあります。一方で、常に生徒の今必要な能力の指導の創出や、SSHの二期目指しを受け、今の社会で求められる探究心の涵養に取り組み、温故知新を地で行きながら学校全体が一丸となって生徒の進路実現に向けて進んでいきたいと思えます。

## 室津 彰信(高48回)

各大学の入試形態の多様化。さらに本校は四月から付属中学校が設置され、まさに変革の年となります。そのような新しい時代にあって、一二十年の伝統やノウハウで色褪せていないものは多くあります。一方で、常に生徒の今必要な能力の指導の創出や、SSHの二期目指しを受け、今の社会で求められる探究心の涵養に取り組み、温故知新を地で行きながら学校全体が一丸となって生徒の進路実現に向けて進んでいきたいと思えます。

## 室津 彰信(高48回)

各大学の入試形態の多様化。さらに本校は四月から付属中学校が設置され、まさに変革の年となります。そのような新しい時代にあって、一二十年の伝統やノウハウで色褪せていないものは多くあります。一方で、常に生徒の今必要な能力の指導の創出や、SSHの二期目指しを受け、今の社会で求められる探究心の涵養に取り組み、温故知新を地で行きながら学校全体が一丸となって生徒の進路実現に向けて進んでいきたいと思えます。

## 平成31年3月 進路状況一覧

### ◆国立大学合格者数

大学名	現役	浪人	合計
北見工大	3		3
北教大岩見沢校	1		1
室蘭工大	1		1
弘前大		1	1
岩手大	1	1	2
秋田大	1		1
東北大	3		3
山形大	2	1	3
茨城大	47	4	51
筑波大	12		12
宇都宮大	1		1
群馬大	1		1
埼玉大	3	1	4
千葉大	6	2	8
お茶の水女子大	2		2
電気通信大	1		1
東京工業大		1	1
新潟大	1	1	2
金沢大	1	1	2
山梨大	2		2
信州大	2		2
静岡大		1	1
名古屋工大		1	1
京都大		1	1
大阪大	2		2
高知大	1		1
琉球大	3		3
秋田県立大	4		4
茨城県立医療大	10	1	11
前橋工科大	1		1
高崎経済大	2		2
首都文京大	4	1	5
静岡文京大	1		1
都立大	1		1
愛知県立芸術大		1	1
合計	120	19	139

### ◆主要私立大学合格者数

大学名	現役	浪人	合計
早稲田大	13	3	16
慶応大	1	2	3
上智大	1		1
東大理大	17	6	23
国際基督教大	2		2
青山学院大	3		3
立教大	8	2	10
明治大	8	1	9
中央大	11	5	16
法政大	9	2	11
学習院大	7	5	12
日本大	27	3	30
東洋大	5	7	12
千葉工業大	19		19
芝浦工業大	14	5	19
東京電機大	15	3	18
東京農業大	15		15
獨協大	14	1	15
東邦大	8	1	9
文教大	6	3	9
東京工科大	9		9
順天堂大	7	1	8
北里大	7		7
成蹊大	4	2	6
駒澤大	3	3	6
同志社大	1	1	2
成城大		2	2
立命館大	1		1

医学部 医学科			
埼玉医科大		1	1
聖マリアンナ医科大		1	1

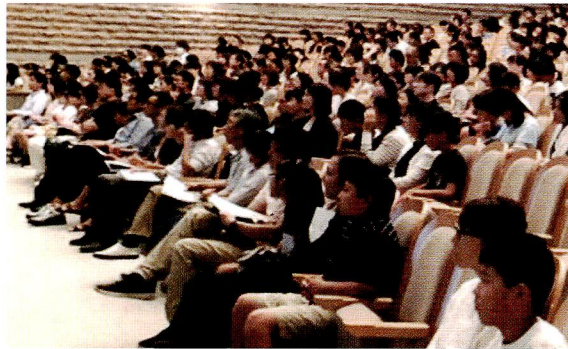


# 2020年竜ヶ崎第一高等学校 附属中学校が開校

創立120周年を迎える2020年度に、竜ヶ崎第一高等学校に併設型の中学校を開校します。

これは、茨城県のすすめる県立高等学校再編プランによる施策で、2020年から2022年にかけて、竜ヶ崎一高をはじめとする10校が新たに中高一貫教育校となる予定です。そのため、現在、急ピッチで開校の準備を進めています。

竜ヶ崎第一高等学校附属中学校では、めざす学校像に「生徒の主体的な探究活動を促進し、知・徳・体のバランスの取れた『生きる力』を育む学校」を掲げ、「何事にも問いを立て、積極的にチャレンジするフロンティア精神を持ち、主体的・協働的に行動できる生徒」「豊かな国際感覚と表現力を持ち、積極的に国際貢献を行う意志と実践力を持つ生徒」「科学的素養を自ら高め、科学技術の発展に貢献しようとする生徒」の育成を目指しています。その実現のために、創立以来120年と



いう長きにわたり受け継がれてきた「文武両道」の精神を附属中学校においても大切にしていきたいです。

中学生の募集定員は、男子約20名、女子約20名、合計40名の1クラスを募集します。これに伴い、来年度から、高等学校からの募集定員は、1クラス減の240名の募集となる予定です。また、中学校の校舎は、現在の高等学校の校舎を使用します。佐貫駅からのアクセスについても、関

東鉄道(株)のご協力により、附属中学生専用の直通バスが運行するほか、龍ヶ崎市のコミュニティバスも利用できます。

8月20日(火)に行われた学校説明会には、およそ700名の参加があり、附属中学校開設への関心の高さが感じられました。

ここに、附属中学校の教育活動の特徴をご紹介します。

- ・ **科学教育、探究活動の充実**  
竜ヶ崎一高は、平成26年度より文科省「スーパーサイエンスハイスクール(SHS)」に指定され、今年度から2期目の指定がスタートしました。科学者の育成、論理的思考の涵養、世界に通用する人材の育成を目指した様々な活動を展開しています。この実績を中学生期という早い時期からの科学教育、探究活動に生かし、さらなる「たくましい科学系人材」の育成に取り組んでいきます。
- ・ **国際教育の充実**  
英語の授業を標準時数よりも多く設定し、授業の充実を図ります。また、語学研修を適宜実施し、語学力の向上に努めます。さらに、

JICAとの交流など、生きた英語に触れながら、国際教育を推進していきます。

習熟度別学習、少人数学習

1学級の併設型中高一貫教育校という特徴を生かし、一人一人の理解度に合わせ授業を行う習熟度別学習を行っていきます。一学級40人の生徒を少人数に分けて授業を行ったり、複数の教員がチームを組んで計画的にチームティーチングを行ったりするなど、工夫した授業を展開します。

・ **教育課程の充実**

1単位時間を55分に設定するとともに、文部科学省の示す標準授業時数よりも多く授業時間を設定し、授業の充実と生徒の基礎的、基本的な学力の向上を図ります。

・ **複数担任制**

中学校には、複数の担任を配置する複数担任制を導入し、時に不安定になりがちな中学生期の心をチームでサポートしていきます。

校章…これまでの竜ヶ崎一高の校章を大切にしつつ、新たに中学校の校章を設定しました。高等学校のデザイン「高」の文字を「附中」としたデザインにし、伝統を引き継ぐ形にしました。





制服・男子は、本校のために

特別にデザインされた新しい詰め襟タイプの制服、女子は、本校の伝統を引き継いだ、新しいブレザータイプの制服です。  
制服の生地は、「誠実・剛健・高潔・協和」4つの校訓をラインで表現したブラックシャドーチエックを採用しました。男子の制服のえり元、女子のスカート



ンは、白幡台に立地する竜ヶ崎一高の「一」、始まりの「一」、唯一の「一」を示すものです。  
また、夏服は、男女とも白のポロシャツタイプの制服にしました。胸には「R」のマークを入れました。創立120年の伝統と誇り、品格を備えた美しい制服です。

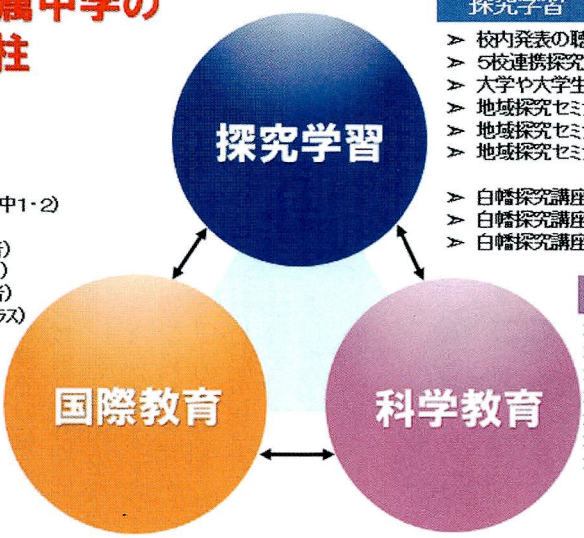
最後に、竜ヶ崎第一高等学校附属中学校では、生徒一人一人を大切にしながら、生徒の自己実現、将来を見据えた進路実現に向けて、職員一丸となつて、全力で取り組んでいきます。これまでの歴史と伝統を大切にしながら、自分の可能性に挑戦し、新しい時代が求めるリーダーとなるような教育活動を展開していきます。  
これからも変わらぬご協力とご支援をお願いいたします。



### 竜ヶ崎一高附属中学の3つの柱

#### 国際教育

- 校外語学研修(中1)
- 5校連携語学宿泊研修「イングリッシュスタディ」(中1・2)
- 国内語学宿泊研修(中2)
- 英語プレゼン講座(希望者)
- 海外留学生との交流(高1)
- 海外語学研修(高1希望者)
- 英語による科学講座(SSクラス)
- 海外修学旅行(高2)



#### 探究学習

- 校内発表の聴講
- 5校連携探究意見交換会(中1~3)
- 大学や大学生との連携による課題探究
- 地域探究セミナー① 調べ学習(中1)
- 地域探究セミナー② テーマ設定・探究方法の習得(中2)
- 地域探究セミナー③ 校内発表(中3)・5校連携探究活動成果発表会
- 白幡探究講座① テーマ構想・分析手法の習得(高1)
- 白幡探究講座② データの収集や分析など(高2)
- 白幡探究講座③ 要旨作成・プレゼン;英語含む(高3)

#### 科学教育

- 研究者等による科学講演会
- 理科系コンテストへの参加(希望者)
- 伊豆大島フィールドワーク(希望者)
- 大学・企業訪問(中2・3)
- 高校生教学合同合宿(数学の関心が高い者)
- 英語による科学講座(高SSクラス, 希望者)
- 医学ゼミ(医学部希望者)



# SSH

## SSH(スーパーサイエンスハイスクール) 2期目スタート

SSH部長 大西 武彦

日頃より、本校の教育活動に多大なるご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

昨年の「白幡」の紙面もいただき、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)について報告させていただきました。記事の末尾で、「この同窓会誌がお手元に届くころには2期目の申請文書が県を通して文科省に提出されています。云々」と書かせていただきました。申請文書提出後の平成31年1月に羽成校長、当時の県高校教育課の石井課長(現水戸二高校長)と共に文科省に出向き、申請文書の詳細についてのヒアリングを受けてまいりました。その結果、3月に2期目指定の内定を頂くことができました。1期目では「探究活動」を通して生徒たちが「たくましく」なっていく様子を目の当たりにしました。2期目ではこの「探究活動」の質を高めることを柱としました。「探究活動」に有用な資質・能力の総称を「問う力」とし、授業をはじめ全ての教育活動で「問

う力」の育成を行うこととしました。教職員全員の共通指針とし、学校全体のカリキュラムが一体となり「たくましい科学系人材」の育成をより効果的に実現することを目指していきます。申請文書のよいうな堅い内容になってしまいましたので、本年度の取り組みの一部を紹介させていただきます。5月24日(金)に本校体育館で「SSH全校講演会」を実施しました。「SSH全校講演会」は主に、科学技術分野で活躍されている研究者や開発者の方にお越しいただき、研究開発の内容や現場の様子、苦労されていることや、やりがいなどについてお話いただくことで、生徒の科学技術についての興味関心を高め、進路の参考や学習意欲の向上につながることをねらいとしています。今年度はJAXA(宇宙航空研究開発機構)のロケットエンジン開発者である、伊藤隆先生をお招きしました。動画等を効果的に組み入れたわかりやすい説明で、ロケットエンジンの開発現場の面白さや緊張感、迫力等が伝わわり、大きな失敗を乗り越え、万端整えての打ち上げ成功の映像は感動しました。さらに日々の学習が将

来やりたいことを実現するうえで大切な基盤になること、そしてあきらめずに自分の好きなことが何かを探究しそれを磨き続けていくことの大切さをお話し頂き、生徒たちに自信を与えていただきました。以下は打てば響く竜ヶ崎一高生の熱い感想の一部です。

・「今からでも努力すれば必ず成功する」という言葉が胸に響いた。今は夢がはつきりしていても関心のあるものへの興味をどんどん深めていって、自分のダイヤモンドを見つけ、磨いていきたいと思った。

・父がJAXAで働いているが、仕事の内容や、どんなことをやっているのかは知らなかった。詳しい仕事の内容や、仕事での映像、画像を見て、悔しさと感動を、リアルに感じる事が出来た!!

・伊藤先生は、自分に興味があることにひたむきに努力を重ねて、例えば結果が残念だとしても、そこで諦めずに何が良くて何が駄目だったかをきちんと振り返ることができると人だとわかり、そのような人が「一流の人」になれるのだ

と思った。世界の最先端ではこのようなことが常日頃から行われているのだと思った。

・伊藤さんのロケット愛がとてもすごいということが伝わってきました。仕事に対する思いや、夢に向かって努力し続けることの大切さを学ぶことができた。自分達の可能性の大きさも学べた。自分のやりたいことを見つけていきたいと思う。

・失敗はいけないことではなく、それが新たな成功に繋がるとか落ち込むのではなく、何とかしようとする気持ちを学びました。失敗を成功につなげられた時の喜びは大きいと改めて学んだ。

・たくさんの失敗があるからこそ成功があるのだと改めて分かった。ロケットには興味がなかったがたくさんの動画を見せてもらい興味が湧いた。失敗のあと再び打ち上げ成功したとき、ロケットに携わった方々の思いが伝わってきてとても感動した。一生懸命頑張って成功させたいという強い思いが成功に大きく繋がっていたのだと思った。とても貴重な話を聞いて良かったし自分もなにかひとつのことに一生懸命になって成功したときの気持ちを味わいたい。竜ヶ崎一高が生徒にとつてより素晴らしい学びの場となるよう、教員一同、力を合わせて尽力していきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いたします。





### 部活動状況

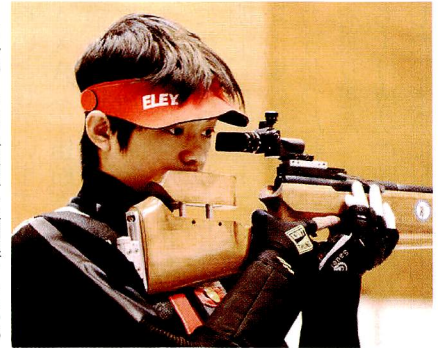
#### 射撃部

10月4日(金)～6日(日)まで桜川市岩瀬体育館ラスカにて行われた第74回国民体育大会ライフル射撃競技会において本校生徒2名が第3位の成績を収めました。

チーム・ライフル少年女子  
30発競技

第3位 峰 風花  
チーム・ピストル少年女子  
60発競技

第3位 佐々木真由  
地元開催ということもあり、大きなプレッシャーの中で撃つというのは難しいものですが、選手一同とても良い経験となりました。選手の大半はまだ2年生ですので、



これからの活躍を期待したいと思います。今後とも射撃部への応援をよろしく願います。顧問 出雲 辰雄

#### 柔道部

第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体2019」が45年ぶりに本県で開催され、柔道競技は10月5日(土)～7日(月)までたつのこアリーナ(龍ヶ崎市)で行われました。過去の国体柔道競技では1964年の東京オリンピック金メダリストの岡野功氏(高14回)を始めとし、多くの先輩方が活躍されました。本校からはボランテアを希望する生徒(柔道部含む)29名が参加しました。本校の生徒たちは受付・進行・競技補助などを担当し、積極的に

大会運営に貢献しました。ボランティアに参加した生徒たちは地元茨城県の選手団はもちろんだ、他県からお越しいただいた選手団の皆様をサポートすることができ、貴重な体験をすることができました。顧問 齊藤 健太(高50回)



### 部活動の主な成績

(令和元年4月～9月)

- ◎ 県総体 団体
  - 男子出場・女子ベスト8
  - 個人男子
  - 佐藤・田川ベスト16
  - 個人女子
  - 齊藤・小林ベスト8
- ◎ 射撃部
  - ☆ 関東大会
  - 男子団体……………3位
  - 男子個人
  - 本橋3位、松田8位
  - 女子個人
  - 佐々木優勝、峰2位
  - ☆ 全国大会
  - 男子個人……………本橋優勝
- ◎ 陸上競技部
  - ☆ 北関東総体
  - 男子走幅跳……………青木出場
  - ◎ 県総体
  - 男子四百Mハードル
  - 飯島7位
  - 女子円盤投……………植田7位
  - 女子やり投……………植田8位
  - ☆ 関東高校新人大会
  - 男子三段跳……………高野出場
  - 男子四百Mハードル
  - 飯島出場
- ◎ 柔道部
  - ◎ 関東県予選
  - 団体……………男女出場
  - 個人女子
  - 齊藤・小林ベスト8

- ◎ 女子ソフトテニス部
  - ◎ 関東県南予選
  - 団体……………準優勝
- ◎ 県総体
  - 団体……………ベスト16



- 関東県予選
  - 団体……………ベスト16
  - 個人……………出場
- 総体県南予選
  - 団体……………優勝
- 県総体
  - 団体……………ベスト16
  - 個人……………出場
- 県南夏季選手権
  - 個人……………幸坂・藤ペア3位
- 男子バレーボール部**
  - 関東・総体県南予選……………出場
  - 国体記念大会県南予選……………出場
- サッカー部**
  - 関東県予選……………ベスト16
  - 県総体……………出場
- 軟式野球部**
  - 関東県予選……………出場
  - 夏季県大会……………出場
  - 秋季県大会……………ベスト8
- 弓道部**
  - ☆関東大会
    - 個人……………橘川出場
  - 関東県予選
    - 男女団体……………出場
    - 男子個人……………出場
    - 女子個人……………橘川7位
  - 県総体……………
- 男女団体……………出場
- 剣道部**
  - 関東県予選
    - 男子団体・個人……………出場
  - 県総体
    - 男子団体・個人……………出場
- 硬式テニス部**
  - 関東県予選
    - 男子団体……………ベスト9位
  - 茨城県公立大会
    - 男子団体……………第5位
  - 総体県予選
    - 男子団体……………出場
    - 女子団体……………さいたまコバトンカップ
  - 県新人大会
    - 男子個人……………出場
- 卓球部**
  - 関東県予選
    - 女子団体・個人……………出場
  - 県総体
    - 女子個人……………出場
    - 女子団体……………ベスト16
  - 関東県南予選
    - 男子団体・個人……………出場
  - 総体県南予選
    - 男子団体・個人……………出場
- ハンドボール部**
  - 関東県予選……………出場
  - 総体県予選……………出場
- バドミントン部**
  - 関東県予選
    - 男女団体……………出場
  - 県総体
    - 女子団体……………出場
    - 女子ダブルス……………出場
- バスケットボール部**
  - 関東県南予選
    - 男子……………出場
    - 女子……………出場
  - 県総体
    - 男子……………出場
    - 女子……………ベスト16
- 文化部**
  - ☆東関東吹奏楽コンクール
    - 高校B部門……………銀賞
    - 高校吹奏楽コンクール……………金賞
  - 輝け音彦・音女コンサート……………参加
  - プラス・エキスポ2019……………参加
- 吹奏楽部**
  - 県総体……………
- 書道部**
  - 県南地区高等学校音楽会……………参加
  - 県総文祭……………C級三位入賞
  - ☆全国高校総文祭佐賀大会
    - 県代表参加・出品……………齋藤
  - ☆高野山競書大会
    - 金剛峯寺賞……………増子
    - 高野山管長賞……………藤田
    - 高野山書道協会賞……………山本
  - ☆高校生国際美術展
    - 優秀賞……………菅野
    - 奨励賞……………齋藤、根本
  - 佳作……………山本、手塚、増子
  - ☆高円宮杯日本武道館大展覧会
    - 読売新聞社賞……………片見
  - ☆安芸全国書展高校生大会
    - 書道美術館賞……………井上
    - 入選……………根本、藤田
    - 江波、増子
- 写真部**
  - 県総文祭
    - 写真の部……………出品
- 美術部**
  - 白龍祭ステンドグラス作成
  - 読書感想画コンクール出品
- 茶道部**
  - 白龍祭……………お茶会
  - 県高校生茶道部交流会……………参加
- 英語部**
  - 国際教育スピーチコンテスト……………参加
- 文芸部**
  - 小説集「のひすはれ」の製作・発行
  - 詩集「画竜点睛」の製作・発行
- 軽音楽部**
  - ☆関東グランプリ大会予選……………出場
- サイエンス部**
  - 白龍祭：科学ミュージアム……………参加
  - 科学の甲子園……………参加
  - おもしろ実験フェス……………開催
- 棋道部**
  - 春季県大会……………出場
  - 竜王戦県大会……………出場



### 定時制保健講話

10月21日（月）龍ヶ崎済生会病院の産婦人科医師、陳央仁先生をお招きし、「自分（いのち）を生きるく愛し愛されるために」と題して、保健講話が行われました。

陳先生は、今ここに存在するひとりひとは、「親の愛が性を通して生みだした奇跡」であり、『性』とは、字の通り、心と生を合わせて性として成り立つ、人格の中心であるということ、ゆえに、誰しもが、生きていくうちに避けては通れない人の一生にかかわる大切なものであるということ、一人でもたくさん



の子どもたちに伝えたいという熱い思いを抱いて講演をされています。講演を通して、性の尊さ、そして、性体験にはそれぞれに適した時期と責任が伴い、時期を間違えると人生にも関わる大きな問題となることや、加えて、性感症の危険性と予防・薬物の怖さなど、知っていただければならない大切なことをたくさん教えていただきました。講演後の感想の中にも、講演を聞いて、自分に少しだけ自信が持った。命の大切さや性の大切さを学べた、などたくさんの方の感想が寄せられ、子どもたちも真剣に陳先生の話を聞き、性に対して向き合う貴重な時間を持つことができました。

養護助教諭 久保 美津

### 進路ガイダンス

七月五日（金）、定時制ではキャリア教育の一環として進路ガイダンスを実施しました。生徒は、事前の希望調査に基づいて「大学短大コース」「専門学校コース」「就職コース一、二年」「就職コース三、四年」と4つのコースに分かれて講義を受けました。

「大学短大コース」では進学後の学習内容や学生生活、

必要な学費についてなど説明していただきました。また「就職コース一、二年」ではワークシヨップを取り入れて「自分の将来を考えよう」と自分を見つめ直す良いきっかけを得ることができました。

生徒達からは、「学ぶ力に身につけるために勉強をする、ということが実感できた。これからの高校生活を大事にしようと思った。」「求人票の見方や履歴書の書き方がわかって、不安が解消され、安心した。」という感想も聞かれ、皆真剣に自分の進路と向き合っていました。

教諭 中島 陽子



### 同窓会会員名簿の発行

「白幡同窓会会員名簿」は、平成2年の同窓会総会で5年ごとに発行することが決定されました。今回で6回目となり、令和2年の12月発行を予定しています。

この会員名簿は、平成27年3月の卒業回より記載事項をクラスごとの五十音順記載に変更しました。また、各卒業回の幹事一覧を記載しています。

母校への郷愁を誘い、会員相互の架け橋となる同窓会名簿を作成するに当たり、個人情報への管理に十分配慮しながら、できる限り正確な情報を把握することに努めてまいります。

今回の名簿発行にあたり、編集委託しました株式会社サトから同窓会会員の皆様には、令和2年3月以降ご案内文書等が送付されることになります。



(2015年発行)

名簿発行に関しまして、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 編集後記

同窓会会報「白幡」の編集作業は十月に亡くなられた宮本正俊先生が中心となって初校から最終校正まで行われてきました。その宮本先生を突然失い、途方に暮れる思いが今も消えません。宮本先生がこれまで会報に寄せてきた思いを考えれば、途方に暮れる暇などはないことは明白でした。先生の緻密で常に正確さを求める編集姿勢は、私たちが編集に携わる者として決して疎かにしてはいけないことだと改めて編集委員一同確認したところです。

今回も引き続き「協力金」のご支援をいただいた方々の「協力金納入者芳名簿」を作成し、会報とともにお届けすることにしました。

今後とも同窓会活動につきまして、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

会報編集委員

- 小嶋 豊 (高10回)
- 木野内昭治 (高13回)
- 服部 俊夫 (高25回)
- 倉持 正男 (高27回)
- 篠塚 文男 (高28回)
- 川口 浩己 (高29回)
- 有川 保 (高33回)
- 霜村 裕通 (高33回)
- 磯山 佳美 (高34回)